住民基本台帳人口移動報告　2022結果　　から

|  |
| --- |
| 2023年1月末公表の住民基本台帳人口移動報告とは、“住民基本台帳法の規定により市町村に届出等のあった転入者の日本国内の移動に係る情報を集計したもの。（国外からの転入者、国外への転出者等は含まない）”です。「昨年（2022年）1月から12月までの間での人の移動の実態が把握できます。\*詳しくは住民基本台帳人口移動報告を検索してください。 |

１　結果報告の要点

・転入超過は東京都など11都府県、東京都が最も拡大、千葉県が最も縮小。

転出超過数は広島県が最も多く、愛知県が最も拡大、京都府が最も縮小。

・３大都市圏（東京圏・名古屋圏・大阪圏）全体では８万954人の転入超過

　前年に比べ１万5081人の拡大。

・東京圏は9万9519人の転入超過、前年に比べ1万7820人の拡大　２０１９年以来３年ぶりに東京圏以外の全ての道府県との間で転入超過

・東京圏（東京都３万8023人・神奈川県２万7564人・埼玉県２万5364人・千葉県8568人）の転入超過となり構成するすべての都県が転入超過となっているが、前年に比べ転入超過数は東京都のみ拡大となっており、千葉県、神奈川県及び埼玉県では縮小となっている。

・名古屋圏は１万6218人の転出超過、前年に比べ5304人拡大した。名古屋圏を構成する愛知県は7910人・岐阜県は3803人・三重県は4505人の転出超過となり、４年連続で構成するすべての県が転出超過。

・大阪圏は2347人の転出超過となり前年に比べ2565人の縮小となった。大阪圏を構成する大阪府は6539人の転入超過となったが、兵庫県5625人・京都府2034人・奈良県1227人の転出超過となっている。

・転入超過数が最も多いのは東京都特別区（2万1420人）次いで　さいたま市（9282人）大阪市（9103人）となっている。4位札幌市・5位横浜市となり14位に流山市（2786人）20位に所沢市（1927人）となった。（※町村では1位阿見町（茨城県）

2位大泉町（593人）12位に杉戸町（266人）となった。）

・2022年12月31日現在の全国1719市町村（東京都特別区部は1市としてｶｳﾝﾄ）についてみると、転入超過（転入超過数0の市町村（10市町村）を含む）は564市町村で全体の32.8％となっている。転出超過となっているのは1155市町村で全体の67.2％となっている。

・都道府県の中で、転入超過となっている市町村の割合が5割を超えるのは、3都県（神奈川県・埼玉県及び東京都）。

・0歳から14歳の転入超過数が最も多いのはさいたま市（1520人）次いで町田市（948人）3位つくば市、4位流山市、5位印西市、6位八王子市などとなっている。20位に上尾市（277人）が入った。

・15歳～64歳の転入超過数が最も多いのは東京都特別区部（4万7678人）次いで大阪市（1万3188人）3位横浜市・4位さいたま市・5位札幌市となり16位に流山市・17位に川口市（1786人）

・65歳以上の転入超過数が最も多いのは札幌市（2278人）次いで福岡市（709人）3位はさいたま市（701人）

２　熊谷市の状況

　　・令和4年（2022年1月～12月）の転入者数は8,045人、転出者数は7,433人

　　　転入者が転出者を612人上回り“転入超過”となった。

　　　転入転出を年代でみると

　　・20代女性の転入者数は1193人、転出者数は1178人でその差は15人

　　・20代男性の転入者数は2111人、転出者数は2073人でその差は38人

　　　また、ﾘｰｻｽの人口社会増減ﾏｯﾌﾟで熊谷市の20代男性の転出入をみると航空自衛

隊熊谷基地に起因すると思われる異動が相当数あると考えられます。